

この度、2016年4月4日から4月29日までの4週間、米国ハワイ州ホノルル市に位置する、ハワイ大学医学部関連病院の Kuakini Medical Center で内科実習に参加させていただきました。4週間のうち3週間は Kuakini Medical Center の General Internal Medicine で、最後の1週間はハワイ大学医学部 Family Medicine の臨床教授 Dr. Jinichi Tokeshi（渡慶次仁一先生）の Family Clinic でお世話になりました。

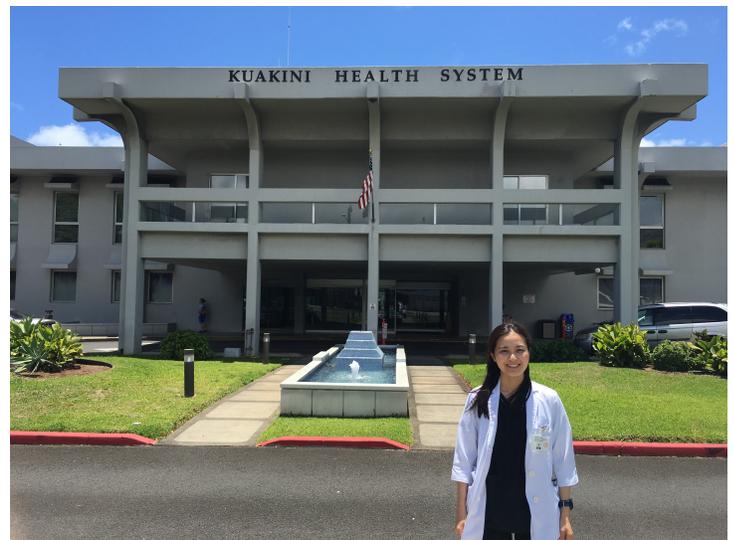
Kuakini Medical Center(KMC) について

KMC はワイキキから車で15分ほど離れたリリハ地区にある病院です。1900年に日系移民のために設立された Japanese Charity Hospital (日本慈善病院) が前身で、1918年にカハラ地区からクアキニ通りに移転しました。現在は2次救急やICUを備えた約250床の急性期病院、また医学生や研修医教育の場である teaching hospital として機能しています。KMCの敷地内には急性期病棟の他に、老人医療施設が入っている別棟と Physicians Tower という開業医クリニックが複数入っているビルが整備されています。KMCのあるリリハ地区は日系、フィリピン系の住民が多く、実習中にお会いした患者さんの大半は日本名をお持ちでした。医師やレジデントも日系の方が多かったことが印象に残っています。

KMCのもう一つの特徴は、患者さんの多くが70歳以上のお年寄りであることです。高齢者は複数の疾患を抱えていることが多いため、KMCは複雑な病態を抱える症例、そして根治が難しい症例を診療するスキルを磨くことのできる研修病院であるといえます。

General Internal Medicine の実習

まず、Internal Medicine (IM) の実習内容についてご紹介します。IM実習中は University of Hawaii Internal Medicine Residency Program のレジデント（研修医）のチーム診療に加わる形で、彼らに密着して行動しました。KMCでは Medical Team Care といって、2~3人のレジデントがチームを組んで診療する体制となっています。4つあるチームにはそれぞれ Intern と呼ばれる1年目、Upper resident と呼ばれる2~3年目のレジデント、さらにハワイ大学医学部3年生が一人ずつ配属されます。時に私の様な海外からのオブザーバーも一緒にチームの一員として診療に当たります。



一日が終わった後、KMCの正面玄関前にて

私のチームの典型的な 1 日の仕事の流れをお示しします。私は主に Upper resident に伴って行動しました：

5:00 AM ハワイ大学の医学生が病院に到着。担当患者(1~3 人)の状態と overnight の変化について把握するため病棟回診を始める。

6:00 AM Upper, Intern が到着。Intern は一人で、私は Upper についてチームの患者全員について回診を始める。回診を終えた後、カルテ記載。

8:00 AM 月・金は Morning Report といって、レジデント全員と研修プログラムのディレクターを含む指導医数名が集い、レジデントが受け持った症例の中で特に診断に難渋した例についてディスカッションするカンファレンスがあります。Morning Report は、レジデントが症例プレゼンテーションのスキルを磨き、知識の確認などを行うことのできる場として設けられています。

水・木は循環器内科、神経内科、血液腫瘍内科などの専門医の先生がレジデントに向けて、診療に役立つ講義をさせていただきます。

10:00 AM までに、“Attending rounds”：担当患者の主治医である内科専門医 (hospitalist) に患者さんのアセスメントと治療方針について報告・確認を行います。

10:00 AM ICU カンファレンス：ICU に入院している患者についての報告会を毎朝行います。KMC ではオープン ICU というシステムをとっており、内科外科関係なく集中治療が必要になった患者を ICU に送ることができます。内科で入院し ICU に入っている患者はレジデントチームと集中治療専門医が共に診療に当たります。この ICU カンファを通してレジデントは症例からの学びを共有し合い、集中治療専門医からの指導を受けます。ICU カンファが終わり次第、チームごとに分かれて病棟業務に戻ります。

午後：処置やカルテの記載、患者家族と面談を行います。通常、午後 4 時頃までには仕事を終わらせて皆帰宅しました。

午後 5 時から翌朝 5 時までは夜勤のレジデントが入院患者の急変や夜間の新規入院に対応するシステムとなっています。



お世話になったチームと。

左から UH 医学生、Intern、Upper resident、私。

<救急当直 Call day>

それぞれのチームは 4 日に 1 度 救急外来の当直をします。当直ではその日の朝 7 時から翌朝 7 時まで受診し、内科的入院治療が必要と判断された新規入院患者の治療を担当します。研修プログラムのルール上、各チームが受け持ちできる患者は 10 人（うち ICU 患者は 3 人）までと決められており、枠を超えると新規入院は全て上級医が担当します。このように、KMC ではレジデントが落ち着いて患者の診療に当たって学べるよう、環境が整備されています。Upper resident は当直日の朝 6 時から翌朝 11 時までの 29 時間勤務となります。

すが、超過勤務にならないよう早めの帰

宅が促されます。米国では患者の入退院の回転が早いと聞いていましたが、KMCでもその通りで、当直の日に入院して受け持ちとなった患者さんは多くの場合、2,3日で退院していきました。

当直日も病棟業務やカンファは通常通り行われますが、救急患者が来るとレジデントのピッチに連絡が入り、チームは救急外来に出向いて患者の診察と治療に当たります。この時、ハワイ大学の医学生も数名の患者の間診、身体診察を行い、患者のアセスメントと治療方針決定に必要な情報聴取の一端を担います。

私はとても教育熱心なチームに恵まれ、Upper residentには毎朝の回診の際に、患者さんの病態に応じた身体診察、患者さんや家族とのコミュニケーションの取り方、コメディカルの方々との関わり方、など多くを教えてくださいました。また、空いた時間には抗生剤の使い方、カルテの書き方などもご指導いただきました。何かわからないことがあるとレジデントは UpToDate を駆使して情報収集し、治療方針決定に役立てていることも学びました。実習期間後半は私自身、患者さんを数名担当し、毎日患者さんのアセスメントとプランを考え、Upper residentの前でプレゼンの練習をさせていただきました。自分が担当医になった気持ちで、責任感を持って患者さんを診るように心がけることで、今までにはない視点から患者さんのことについて考え、学ぶことができたと思います。KMCの実習でとても印象に残っているのは、レジデントの方々が、医師としての明確な責任感と倫理観そして compassion を持って患者さんに接していることです。レジデントの学びに対する直向きな姿勢と、指導医の教育に対する情熱にも感銘を受けました。

KMCは患者さんの入れ替わりが激しく高齢者の多い病院であることより、高血圧、糖尿病、高脂血症、COPD、心筋梗塞、脳卒中、蜂窩織炎や肺炎（市中肺炎、院内肺炎、誤嚥性肺炎）などの Common diseaseをはじめ、多様の症例を経験することができました。また、文化や言語、宗教など患者さんの異なる社会的背景にもセンシティブに対応する医療の形を学ぶことができました。

<Dr. Littleの医学英語教室>

毎週木曜日の午後5時から1時間半、長年コミュニケーションを教えていらっしゃる Dr. Littleのスピーチクラスに参加しました。ここでは系統だった症例プレゼンテーションの形式とデリバリー法について学びました。毎日レジデントが attending にプレゼンする様子を観察することで医学英語の表現を自分なりに学び、それを木曜日のプレゼンテーションに生かせるよう準備してクラスに臨みました。はじめは手元のメモを読みながらの発表となりましたが、練習を重ねることでメモを見る回数も減り、はじめより自信を持ってプ



最終日に Dr. Little (中央)が farewell dinner を開いてくださりました。

プレゼンができるようになった気がします。上手なプレゼンには第一に患者さんのことを良く把握しておくことと発表の練習が不可欠であることを学びました。

<宿泊・休日について>

実習期間中は KMC に隣接する 2 階建てのアパートの 2 階の 2DK に、高知大学から実習に来ていた 6 年生と生活を共にしました。寝室 2 室とバスルーム、キッチンがあり、ベランダには洗濯機も用意されていたため洗濯にも困らず快適に過ごさせていただきました。徒歩 5~10 分圏内にあるスーパーで食材の調達が可能であったので、できる限り自炊して過ごしました。病院のすぐ横で生活できたので、忙しいながらも最大限の睡眠時間を確保できたことはありがたかったです。

実習生は火曜日の午後と日曜日がオフだったので、この時間を使ってハワイの自然と文化に触れることができました。平日でも少し早めに終わった日には、私がアウトドア好きだということでレジデントがサーフィンやハイキングに連れて行ってくださりました。また、チーム全員が休みの日には皆でサーフィンのメッカとして知られ、海ガメが生息するビーチが並ぶオアフ島北側のノースショアに足を伸ばし、ハワイの大自然を楽しみました。Work hard, play hard をモットーに、実習も休日の遊びも全力投球して、大変充実した時間を過ごすことができました。



チームが連れて行ってくださった Papailoa Beach, North Shore にて



高知大学から同時期に実習に参加され、1 か月ルームメイトだった玉井さんと休日に Farmers' Market へ行きました。

Family Medicine の実習

3 週間の IM 実習を終えた後の 1 週間は Tokeshi 先生の Family Clinic にて実習をさせていただきました。Tokeshi 先生は居合道や茶道に精通されておられ、武士道の精神を先生ご自身の医業にも生かしていらっしゃることで、先生の実習は“Tokeshi Dojo (道場)”と呼ばれています。ハワイ大学医学部でも Tokeshi Dojo の厳しさは有名だと耳にしていたので、1 週間サバイブできるか不安でした。しかし振り返ってみると、Tokeshi Dojo は何にも代えがたい学びと、Tokeshi 先生の情熱に溢れた場でした。

Tokeshi Dojo の 1 日は朝 4 時起床から始まります。朝 6:30 に先生との回診が始まる前に、KMC の老人医療施設と急性期病棟に入院されている Tokeshi 先生の患者さん全員のバイタルチェックとカルテ記載を行う必要があるため、これにかかる時間を逆算して起床時間を決めました。同じ実習期間中に高知大学の学生も実習に参加していたため、15 人ほどの患者さんを私たち二人で手分けして診させていただくことにしました。Tokeshi 先生との回診後は毎日 40 分ほど、医学や哲学のレクチャーをしていただきました。武士道に学ぶ、医師としての心構えについてのお話が特に心に残っており、Tokeshi 先生の医師としての信念、患者さんに対する compassion、教育に対する情熱に心を打たれました。

Tokeshi 先生はいつでも患者さんの言葉に耳を傾け、真摯な態度で接し、決して大きな声で患者さんに話しかけることはありません。「耳が聞こえにくい患者さんだからといって大きな声を出すのは違う。気持ちを込めて、ゆっくり語りかければ、患者さんは理解してくれるもの。真摯な気持ちで接することで、患者さんは心を開いてくれる…」これを毎日実践されている Tokeshi 先生は、患者さんやそのご家族から厚い信頼を得ておられました。

Tokeshi 先生は患者さんのためなら、ご自身がどのような状況に置かれていようと病院へ駆けつけます。近年米国では家庭医が自分の患者が入院した際、治療は hospitalist に任せるとするのが一般的となっているそうですが、Tokeshi 先生はご自身の患者さんが入院された場合でも主治医となって治療に当たられ、臨終にも立ち会われます。それは、患者さんが一番苦しい時こそ自分が必要とされている、患者さんの人生の終わりに立ち会うことは医師としてできる最後の奉仕である、というお考えに基づいています。常に患者さんを第一に思っている Tokeshi 先生の愛と優しさに毎日心を打たれました。

朝の回診とレクチャーが終わると、Physicians Tower にある先生のクリニックで実習を行いました。クリニックでは問診と身体診察を担当させていただきました。問診では患者さんの言葉だけでなく、心の声に耳を傾けることの重要性を学びました。さらに、身体診察や採血の手順と「型」、そしていかなる状況でも心の冷静を保って診察にあたることの大切さを教わりました。

16 時頃、クリニックが終了となると、午後の回診を行います。この時間は患者さんやご家族とお話して、病状の変化だけでなく、患者さんそれぞれの生活や社会背景について知ることに努めました。午後の回診を通じて、日に日に患者さんとの距離が近くなるのを実感しました。病気だけでなく患者さん一人一人のことについて学ぶことで、より意味のある診療ができることを垣間見る経験となりました。

1 週間という短すぎる時間ではありましたが、Tokeshi Dojo では、多くの患者さんとの出会いを通して医学の枠を超えた感性を磨き、医師の役目について考え、学ぶという、医師の卵としてとても貴重な体験をさせていただきました。確固たる医師としての信念と心構えを持ち、愛情に溢れた Tokeshi 先生との出会いは、人生の宝物となりました。

終わりに

Kuakini Medical Center での 4 週間は、医学の勉強以上に、自分の目指したい医師像について今一度考える貴重な実習となりました。レジデントたちの学びに対する情熱、明確なビジョンを持って研修をしている姿に毎日たくさんの刺激をいただきました。多くのロールモデルに出会えたことは本当に幸せだったと思います。この 1 ヶ月で学んだことを、これから少しでも多く実践に移していきたいと思っています。

このような人生の宝物となる貴重な経験をさせてくださった KMC の患者さんと医師の方々、一年以上前からサポートして下さった神戸大学の学務課のスタッフの方々、先生方、そしていつも私のことを信頼し応援してくれる家族に心から感謝いたします。

神戸大学医学部医学科 6 回生
白根璃沙子

2016 年 5 月 15 日



Tokeshi 先生が実習最終日に「卒業式」をしてくださいました。